

②B—30 西洋服装史に見る子供服 第二報

東京家政学院短大 本田 君

1. 古い西洋の絵画を見て、子供達がごく幼いうちは男女の別なく母親と同様の服装をさせられていること、また男児は7歳で始めて父親と同様の服を着せられ、鬘まで被せられていたことに驚き、興味を覚え、現在の子供服にいたるまでの研究を思い立った。

2. 下記の文献に拠る。

① Cunnington, W. & P.: Pictorial History of English Costume.

② James Laver & Irs Brooke: English Children's Costume.

③ 丹野郁著 西洋服飾発達史 古代、中世編。

④ 元井能著 西洋被服文化史。

⑤ 八木静一郎著 西洋服装史。

⑥ Wabester 大辞典。

⑦ 角川書店 世界文化史大系。

⑧ 平凡社 世界美術全集。

3. 18世紀半ばまでは特に子供の発育、生活を考慮して作られたいわゆる子供服というものはなく、形は大人服そのままに外観的だけに Hanging Sleeve, Leading String または Mackinder 等を添えて子供服の形式を整えたに過ぎなかったものが、1775年に——母親の思い切った考案によって始めて男児服が現われ、続いて19世紀の始めには女兒服も見られるようになり、ようやく子供達は親達と同型の優美・華麗な服装のなかでしのぶことを余儀なくされていた窮屈と不自由から解放されたことが明らかとなった。この子供服が、文化の発達に伴い流行や生活上の必要に応じてさまざまな変化を経、現在に